

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイ ほほえみ		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 15日		～ 2025年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16名	(回答者数) 12名
○従業者評価実施期間	2025年 1月 15日		～ 2025年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	異文化交流が出来る	日本だけでなくブラジル、タイ、フィリピンなど様々な国にルーツを持つ子供が、一緒に過ごす事で日本語を教えたり他国の言語や文化を共に学び合える環境です。職員も様々な国の出身者が多く意思疎通が図れる。	学校休業日など多くの時間がある時に、それぞれの国の食を通じた交流なども図っていく。
2	障がい種別を問わない受け入れと適切な支援の提供	当デイは身体、知的、発達などの障害種別を問わず受け入れており、重身の児童(4名)を始め、子供たちが安心して休息できる空間になっており、完全バリアフリーの環境が整っています。	様々な障がいを持つ児童が共に過ごす当デイの独自性を活かし、利用する児童が共に過ごす事を通して、社会性コミュニケーション能力の向上を図っていく。
3	個別・集団・小集団での活動	日々の活動プログラムは一つに絞らず、障がい種別に応じて子供たちが選択出来るように支援している。また、ニーズに合わせて個別(療育)や、小集団での活動(創作やおやつ作り)、集団(ゲーム)などを通して、多様な体験が出来るように支援しています。	学校休業日などに、外出できる活動プログラムを検討していきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の関わり	夏祭りを開催し、地域の子どもや保護者様にかき氷を無料で配布するイベントを行ったが、訪れる時間がバラバラで周知も徹底されておらず、保護者同士が顔を合わせたり、話す機会が少なかった。	保護者交流会、保護者参観を開催しSNSや連絡帳を活用して周知を徹底し、保護者同士が交流できる機会と場所を提供していくよう努める。
2	保護プログラム内容の充実	児童一人ひとりの障がいの度合いが異なり日常スキルの違いが幅広いことや、年齢などで個々に見合った内容の活動を行う難しさがある。	現在行っている季節の行事や誕生日会だけではなく、休校日などには行ける範囲で外に出る機会を設ける。 職員間でも十分話し合っって十分話し合っって、個々に応じた参加方法を考え提供していく。
3	非常時の対応	緊急時対応マニュアル、感染症マニュアルを策定し掲示してあるが、保護者様は来所されない限り見る事が出来ない。	月に1回発行の「ほほえみたより」を活用し、緊急時などのマニュアルを紹介し周知していく。 また夏休み等を利用し、避難訓練を実施していきます。